



小森谷 博之 議員



古河市市営住宅について

問 市営住宅は、地域のセーフティネットとして重要な役割を担っているが、老朽化の進行、入居率の低下、高齢化の加速など、複合的な課題が同時に進んでいる。これらの課題に対し、個別対応ではなく、中長期的な視点で総合的な住宅政策の再構築が必要である。所見を伺う。

答 老朽化等の問題はありますが、長寿命化計画に基づいて、今後

も適切に修繕していく。また、入居希望者アンケート等で希望が多い、低層階の空き住戸の修繕を優先的に進めている。民間の住居等の活用も含め、市営住宅の在り方についても検討したい。市が目指す地域共生社会の根幹である「誰一人取り残さない」という理念の実現に向け、関係機関等と連携し、高齢者の孤立防止や見守りを進めていく。



クワヤ台市営住宅

古河市の SNS 運用について

問 SNS は行政情報を市民に

届けるための重要な基盤であり、単なる宣伝ツールではなく、市民との信頼関係を築くための公共インフラといっても過言ではない。現状では、投稿頻度のばらつき、担当体制の負担、内部規程の整備状況など、改善の余地があると感じる。所見を伺う。

答 今後も多くの市民にフォローしていただけるよう魅力ある配信に努める。担当体制は職員3人だが、インスタグラムにおいては、市民記者の協力もいただいている。運用ポリシー等は、他市町村の事例も参考にし、適宜見直しする。緊急時などの情報発信は、災害訓練等を通じて、迅速かつ適切な情報発信ができるよう運用体制の強化を図る。



阿久津 佳子 議員



家庭系一般廃棄物について

問 有料指定ごみ袋（可燃ごみ有料化）制度とごみ処理一元化（ごみ分別方法統一）において、①市が導入する制度、②それぞれの制度導入日、③延期の予定はないのか、④有料指定ごみ袋の価格・諸手数料詳細と設定額の根拠、⑤減免や有料化除外等の諸制度設計、⑥3地区のごみ減量化の推移と周知啓発の取り組み、⑦リスクマネジメント等の観点から古河クリーンセンター

の存続可否の方針、⑧総和地区・三和地区の廃プラスチック類の分別収集はいつから行うのか、⑨現在、何も制度設計が決まっていない状況下で、今後の進め方・市民への説明はいつから行うのか、以上について伺う。

答 ①ごみ処理手数料を上乗せし徴収するという、有料指定ごみ袋制度を導入する。②有料指定ごみ袋制度は令和8年4月1日導入予定、ごみ処理一元化は令和10年4月開始が目標である。③さしま環境管理事務組合（以下、組合）や構成市町での事務協議に時間を要し、令和8年4月開始は非常に難しい状況である。④価格等の根拠について、組合から提示されたものはない。⑤減免等の制度設計は検

討中であり、関連部署と適宜協議する。⑥出前講座等で周知啓発し、3地区において排出量に減少がみられた。⑦ごみ処理一元化に伴い、廃止の方針である。⑧組合の処理施設の受け入れ体制や、構成市町の収集スケジュールの見直しの課題もあり、組合と協議していく。⑨組合および構成市町での検討状況を見て必要な情報を発信し、混乱を招かないよう適切に対応したい。

有料指定ごみ袋制度開始？

2026年(令和8年)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			4	2	3	4
5	6	7	1	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

《その他の質問》

・学校教育について